

《可能形》学習指導案

一、授業の目標

知識目標：動詞の可能形の作り方、意味と使い方を習得する。

能力目標：可能形を正しく使うことができる。

感情目標：違う日本語表現に関心を持つようになり、学習意欲が高まる。

二、授業の重点と難点

授業の重点：動詞の可能形の作り方、意味と使い方。

授業の難点：可能形を正しく使うこと。

三、教具

マルチメディア、写真

四、授業の方法

タスク教授法、シチュエーション教授法

五、授業のプロセス

(一) 導入

挨拶してから、生徒に今まで勉強してきた日本語でできることについて話し合わせる。「日本語で会話することができます」「短い文章を書くことができます」「自分の考えを話すことができます」などの答えが出る。「～ことができる」という文型は可能表現の一つだが、今回、もう一つの可能表現、「動詞の可能形」を導入する。

(二) プレゼンテーション

まず、生徒に本文と会話文を読ませる。読んだ後、戴さんのことについて何か分かりますか、と生徒に質問する。答えによって黒板に例文を書く。

例文：

戴さんは英語が話せます。

お寿司が食べられます。

多くの人利用できます。(シェア自転車の写真を見ながら、例文を出す)

明日来られますか。

例文の中の動詞をよく見て、可能形の作り方とその意味をまとめるように指示する。

生徒にまとめさせてから、説明する。

V₁ 話す→ 話せる

ウ段 エ段+る

V₂ 食べる → 食べられる

V₃ する → できる

来る → 来られる

可能を表す形で、「～ことができる」と同じ意味を表す。ただし、「～ことができる」を使う場合、動詞の前の助詞は変わらないが、動詞の可能形を使う場合、前の助詞は、「が」になる。それから、可能動詞は2類動詞と同じく活用することと、存在を表す「ある」と状態性の動詞「見える」、「聞こえる」などには可能形がないことに注意させる。

(三) 練習

口頭で動詞をいい、それを可能形に直させてから、文を作らせる。

泳げる、飛べる、行ける、教えられる、勉強できる、来られる

(四) 応用

4人がグループで、今までの勉強によって、どんな成長ができたのか、について話し合わせる。5分後発表してもらう。

(五) まとめと宿題

1. まとめ

生徒に授業の内容をまとめさせる。先生は補充する。

2. 宿題

これからの目標と学習計画を書いて、次の授業でシェアすること。

六、板書のデザイン

可能形	
戴さんは英語が <u>話せます</u> (<u>話せる</u>)。能力	～することができる。能力、可能
お寿司が <u>食べられます</u> (<u>食べられる</u>)。能力	V ₁ 話す → 話 <u>せる</u>
多くの人 <u>が利用できます</u> (<u>利用できる</u>)。可能	ウ段 エ段+る
明日 <u>来られますか</u> (<u>来られる</u>)。可能	V ₂ 食べる → <u>食べられる</u>
	V ₃ する → できる

	来る→来られる
--	---------